

## セルフチェックのポイント

### セルフチェックのポイント

運営支援者は、冷静さや客観性を持った態度が必要です。自分自身について、災害VC運営状況について、チェックするよう心がけましょう。

#### ① 心がけたいこと

- ☐ 「こうあらねばならない」といった固定概念を持ちすぎないこと。災害ボランティア活動の範囲や領域も固定化せず、この地域のための災害VCという捉え方をします。
- ☐ 中長期的視点で先を見ること。
- ☐ 地元地域の特性や文化、地元スタッフの得意分野が活かせる形を「共に考える」姿勢を持ち、中心団体やスタッフに合わせた目標設定はどこまでなのか、共に方向性を探っていきましょう。
- ☐ 法的特例措置や資金面サポートについて、資源の動員と活用など、外部からの応援要因とのつながりを果たす役割を担うことが大切です。

#### ②参加しやすい災害VCへ

関係者間でアイデアが交換され、出会いの場となるような機能を併せ持った災害VCになるような支援をしましょう。また、地元スタッフを中心に柔軟に考えてもらうための機会を設けて、受身ではなく能動的な災害VCの運営にするような支援を行いましょう。

#### ③災害ボランティアの安全を第一に、活気ある災害VCへ

- ・ボランティアの安全管理やリスクのためのルールや仕組みづくりが大切です。
- ・多くのボランティアを画一的にコーディネートするのではなく、助けたい気持ちを大切に、ボランティアの力を被災者に届けるコーディネートをめざします。
- ・参加者同士があいさつを取り交わし、互いに尊重しあいながら活動に参加できる雰囲気づくりをしましょう。

#### ④支援者の休養

- ・地元スタッフが一息つける環境づくりや休養・休日がとれる工夫、負担を軽減する工夫をしましょう。

#### ⑤被災者の声、ニーズ把握

- ・地元の町会、地区社協関係者、民生委員などの協力が得られる環境づくり、様々なツールを活用したニーズ把握をしましょう。